

「竹林生け花アート」を実施しました

里山は食料や木材など自然資源の供給だけではなく、美しい景観や文化の伝承、絶滅危惧種を含む多様生物の生息・生育環境として重要な地域です。

里山の環境は、人が利用し、人の手が入る事で維持されてきました。しかし、近年、高齢化の進行や産業構造の変化等の理由によって里山に人の手が入る事が少なくなっています。

このため、アートを里山の保全に結びつけ、里山に興味を持ってもらうとともに、美しい風景を感じる感性を養うため、花芸安達流主宰安達瞳子氏らをお招きし「竹林生け花アート」を実施しました。

1 日 時 平成27年8月8日（土） 11:00～17:00

2 場 所 若狭瓜割名水公園の竹林（若狭町天徳寺）

※本イベントは若狭瓜割名水まつり（主催：若狭瓜割名水まつり実行委員会）の開催に合わせ実施しました。

3 主 催 福井県里山里海湖研究所、花芸安達流奈良支部

4 内 容

(1)「若狭に誘われて -安達瞳子 里山の竹林に遊ぶ-」

(花芸安達流二代主宰安達瞳子作品展)

竹林を整備し明るく見晴らしも良くなった竹林の中、竹林の竹や里山の木、草花等を用いた生け花作品が展示されました。主宰安達瞳子氏の作品展示に加え、花芸安達流奈良支部の皆さんの作品も会場を彩り、来場者の目を楽しませました。



竹林がまるごと展示会場に

坂道を登って竹林に入ると、いたるところに作品が展示されています。さりげなく置かれた作品に、「ここにもあった～」と、ちょっとした宝探しが始まります。



来場者を迎える安達氏

来場者を迎える安達氏。真夏の暑い中でしたが、竹林と着物姿が清々しさを演出します。

竹林を彩る花の数々

竹カゴや丸太、流木といったものも花を生ける花器に使われています。意外な素材に来場者も写真を撮パシャリ。



(2) 来場者参加による生け花アート

竹林の中に吊り下げられた竹の筒に、来場者らが思い思いに花を生けます。花を生けた後は記念撮影、気軽に楽しく竹林を飾っていきます。



(3) 里山整備機械の展示



竹林の隣では、竹林整備に使ったウッドチップパーを展示しました。里山里海湖研究所では里山整備の資機材の貸し出しを行っており、このウッドチップパーも貸し出しを行っている機械の一つです。

このウッドチップパーは切った竹を細かく粉砕できます。今回のイベントでは、粉砕してできた竹チップを竹林内に敷き詰め、来場者の通路として利用しました。

5 所感、その他

今回、竹林を整備し、その竹林をアートに利用することで、竹林の美しさを楽しんでもらい、里山の良さを再認識してもらうという趣旨のもと、花芸安達流、若狭町、若狭瓜割名水まつり実行委員会のみなさんなどから多大な協力をいただきイベントを実施できました。

イベントの際、来場した地域の方から、「(せん定した枝などの) ゴミ置き場になっていた竹林が、このように美しくなって嬉しい」と言ってくれました。

イベントで使用した竹林は、良く整備された部類の竹林で、もっと荒れた竹林は県内に多くあります。

今回、関係者全員が初めてという中手探りで実施したイベントでしたが、一つの事例として今後の里山整備の参考としていきたいと思えます。

準備の様子



竹を運ぶ安達流のみなさん。パワフルな姿からはイベント当日のたおやかな姿は想像できません。



竹をアーチ状にするため皆で綱を引いたり、運動会にも似た雰囲気です。